

社会教育委員研修

10/4
(木)

あすてらすにて
開催!!

「社会教育委員としてのチカラを
発揮するために」

社会教育委員の役割を確認し、求めら
れる力を学び、具体的な動きや社会教育行
政との連携のあり方について考えます。

【講師】

香川大学生涯学習
教育研修センター長
教授 清國 祐二氏



昨年度の様子



親学P2対応 親学ファシリテーター フラッシュアップ研修

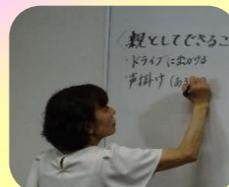
11/7
(水)

いわみーるにて
開催!!

親学プログラム2の修了生を対象に、
プログラムを進行するために必要な知
識やファシリテートの技術を高めるた
めの研修を行います。親学2の養成講
座は受講していないが、興味があると
いう方も、親役として受講可能です。



昨年度の様子



公民館等職員研修第5回

10/19
(金)

少年自然の家にて
開催!!

今年度は、県内14名の公民館等職員の方が
受講されています。(うち西部6名)
前年度の事業を見直し、PDCAにそって企画・
実施・評価・改善、その成果と課題を発表し
合います。ぜひ、会場にお越しいただき、
受講生にエールを送ってください!!



今年度の様子(第4回)

しまね社会教育フォーラム2018 (兼)第2回コーディネーター研修

12/1
(土)
9:30~16:00

サンレイクにて
開催!!

★大会スローガン
わたしの力で、みんなの力で、社会教育の力で
しまねを元気に!

★主題
「地域づくりを担う人づくり」に向き合う
社会教育実践者を目指して

【講師】

国立教育政策研究所生涯学習
政策研究部総括研究官
志々田 まなみ 氏



【実践発表者】

渡邊美恵子氏(松江ちくや子ども広場)
市川 恵 氏(豊川小学校社会教育CN)
大野 佳祐氏(隠岐島前教育魅力化CN)

「対話を通じて融和図れ」 当センターでは耳にた
ができるぐらい、日常的に「対話」という言葉が出て
きて、研修などでそのありようを重要視しながらも模
索の日々です。冒頭は『山陰中央新報(8月22日)』の
『論説』欄の見出しで、内容は外交関係についてでし
たが、「対話」という熟語に思わず吸い寄せられました。
利害関係が衝突するのが外交の常、なのに主張をぶつ
け合う議論(ディスカッション)や交渉(ネゴシエー
ション)でなく、「対話(ダイアログ)」なんだ…。

参加型の学習や話し合いは「対話」を生み出し、一人
一人の主体的な関わりを促す、という考えの下、当セ
ンターの研修は主として参加型の演習を中心に構成し
ています。また、「地域魅力化プログラム」も参加型の
手法で構成しています。

昨今、いろいろなところで「対話」が重視され、学校
においても「主体的・対話的で深い学び」が取組の視点
としてあがり、「対話」がクローズアップされてきました。
一方、身近な地域や職場(当センターのことです)、
さらには家庭で「対話」が生まれているかと言えば、そ
うでもないと感じています。

「12人の怒れる男」というアメリカ映画(1957年製
作)があります。裁判所で、有罪(ギルティ)と有罪で
はない(ノット・ギルティ)の二者択一、全員一致の評
決を求められる陪審員の話です。殺人事件を裁く法廷
で、犯人とされた少年に圧倒的に不利な証拠や証言が
そろいました。

後の予定があったり様々な背景を抱えたりしている
陪審員のほとんどは、最初の評決で有罪とします。た
だ一人、確信を持つわけでも無く有罪としなかったの
が、ヘンリー・フォンダが演じた陪審員8番。彼のセ
リフに「とにかく、話をしましょう。評決をするのは簡
単ですが、少年の一大事なんですから…」というので
あります。ここから、「なんでそんなことを言うんだ」
「その意見にはどんな意味があるんだ」「早く帰りたい
のに」…。渋ったり、対立的な場面もありながら、お互
いの考えや意見の違い、その背景を「探究」していきま

す。感性や価値観の違う者同士が徹底的に議論をし尽
くし、やがて始めの自分の思いを忘れたかのように考
えを出し合い、証拠や証言の矛盾に皆が気づき、「ノッ
ト・ギルティ」という評決を下します。

この物語の映画としての解釈は様々ですが、ここに
「対話」の1つの形があると考えています。真相は分
からない(定まった答はない・明確な答は誰も持ち合
わせていない)中で、気づきを通してより主体的に関
わり、互いの意見を尊重しつつ、意見や考えの違いの
背景を探し続け、やがて皆の考えが集まり1つの答え
を出す。映画では単に二者択一でしたが、これこそが
「対話」の醍醐味で、多様性を増している今日、求めら
れていることだと思います。

参加型の手法は、「対話」を生み出す工夫として編み
出され、成果をあげていますが、単に形をなぞってい
ても深まらないのも事実です。各地で参加型の学び合
いや話し合いが行われています。時には、遅々として
はかどらない、上辺だけの内容、その時は楽しかった
けど後の動きにつながらない、そんな場面もあるので
はないでしょうか。最近、『ニッポンには対話がない*』
という一見ショッキングなタイトルの書籍にも出会
いました。当センターの責任と反省(実際、日々反省なの
です)からも、手法の基本や勘所を振り返り、生み出さ
れる「対話」の質に、より一層目を向けていきたいと考
えています。

長々と当センターの言い訳のような文になってしま
いましたが、下期の研修、市町の取り組みへの支援、来
年度以降の構想づくりに一層励んでいきたいと思いま
す。地域で活躍しておられる皆さんの声が、当センタ
ーの取り組みの充実につながります。より地域に出向
き、皆さんのお声やお叱りを受け止めていきたいと思
っていますので、よろしくお願いします。

西部社会教育研修センター 所長 舟木志郎

*北川達夫・平田オリザ著、三省堂2011

これまでの研修の様子

第1回 CN研修

6月12日(火)：浜田合庁

【講義】「コーディネータの役割と新たな視点」
大分大学教授 岡田 正彦氏

岡田先生からは、新たな視点として「地域学校協働活動」についての説明がありました。また、コーディネーターに意識して欲しいこととして、☆一人で頑張らない ☆大人が本気で学び、その成果を生かす ☆プラスαの取組 ☆前向きな振り返りをする等を話していただきました。



- 【演習】「コーディネートの手を次を考える」
- ・情報交換 (フリップディスカッション)
 - ・「〇〇地区の子どもたちはどんな子どもに育てたいか」 (カードワーク)
 - ・「めざす子ども像に向かい、どんなことができるか」 (ラベルワーク)
 - ・他グループを見て回る (プレゼン・プレゼン)

【感想】

- ◇「コーディネーターが一人で頑張らない」と聞き、多くの人を借り活動できるという気づき。
- ◇市町で集まってワークができたので共通の基盤で話が盛り上がった。これからは学校へのアプローチの仕方が大切になると実感した。
- ◇学校支援の中に地域のメリットになるしかけが必要だという話は特に印象に残った。



しまねの社会教育基礎講座

7月27日(金)：益田合庁

7月31日(火)：いわみーる

【講義】「社会教育の役割と県社会教育行政の方針と事業」
益田教育事務所社会教育企画幹 品川智成氏 / 浜田教育事務所社会教育企画幹 久佐日佐志氏

社会教育の位置づけと、「島根の社会教育」は、「地域づくりを担う人づくり」を目指しており、そのためには、「住民の当事者意識の醸成」が大切になってくるという話がありました。目指す地域像を描き様々な事業を展開するが、そこには「集うこと」や「力を合わせること」の良さが感じられるしかけをしていき、「押しつけがましくなく何となく乗せられていつの間にか地域のことを考えられるようになる」プロセスが望ましいと話されました。

社会教育の流儀 (評価の指標・ふり返りの目標) **“集って 楽しんで 学んで 動いて 変えていく”**

【事例発表】

「わたしにもできるひとづくり
～ひとづくりを気軽に捉える方法～」
益田市西益田公民館
石川 有里氏



【事例発表】

「親子でスタードームづくり
～君谷の夜を味わう～」
美郷町君谷公民館
岩谷 美由紀氏



【演習】「地域課題を見出し、地域が元気になるためにできることを考えよう」

- あなたの住んでいる(勤務している)地域の 現状 [よさ・問題点など] は？
- あなたの住んでいる地域が、10年後どうなっていたらいいと思いますか？
- 理想の地域像に近づくために必要なことは！

【感想】

- ◇「地域を担うひとづくり」に欠かせないのは、地域で楽しめる人を増やすことなのかもしれない。
- ◇講義では、基礎的な内容がよく理解できた。
- ◇事例発表は、具体的な事例で参考になった。

6名の方が一人一事業を企画・設計し、ファシリテートされました。

ファシリテーター養成講座(3回シリーズ)

1 8月29日(水)

「地域魅力化プログラム」の参加型学習のファシリテート体験を通して、ファシリテーターの役割を知る

- ①参加型学習の意義とファシリテーター
- ②「地域魅力化プログラム」体験
- ③ファシリテート体験(2人組で)



ペアの息もピッタリに・・・
お互いの事業の相談に乗りながら
立案していきます。当日はサブ
ファシリとしても支え合いました。

2 8月30日(木)

地域でのファシリテートを思い描く！学習プログラムのデザイン

- ①自分のテーマ紹介
- ②学習プログラムの企画・設計について
- ③自分のテーマの企画・設計
- ④企画・設計リデザイン・準備



【感想】◇短い期間とはいえ内容の濃い時間を過ごした。

3 9月4日(火)

参加者が互いに引き出し・学び合う ファシリテート体験

- ①ファシリテート体験 各自のプログラムをファシリテート (テーマ)「避難所ビフォーアフター」
「こんなとき！あなたならどうする？」
「みんなで地域を元気にしよう」
「10年後の未来まちづくり計画2018」
「みんなで考える公民館事業」
「自分の町の好きな所」



【感想】◇住民役での参加だったが、勉強になることが沢山あった。

1 5月23日(水)

「事業のふり返りから考える未来」

- 講義：「人づくりの拠点となる公民館の役割」
演習：「事業を見直す」～事業の再構築にむけて～
ミニ講義：「PDCAサイクル」
演習：「全体構想・事業再構築」
演習：「見直す理由
—2分間プレゼン—」



公民館等職員研修(5回シリーズ)

PDCAで見つめ直す公民館事業の実際

2 6月5日(火)

「実践から事業を見つめ直す」

- 説明：「全体構想シートの見直し・肉付け」
演習：「全体構想についての発表と協議」
実践発表：『みんなで子育て！かかわろう!!』
邑南町高原公民館主事 佐藤 匡裕氏
演習：「全体構想シートのリデザイン」



3 6月28日(木)

「住民の学びにつながる事業の全体構想とその展開」

- 演習：「全体構想シートの見直し・リデザイン」
演習：「展開シートのデザイン」
演習：「評価の視点と指標について・アンケートの作成」
演習：「全体構想・実施展開・アンケート用紙のデザイン」
演習：「2分間プレゼン」



4 9月12日(水)

「事業のセールスポイントと取組の成果を伝えるプレゼンテーション」

- 解説：「プレゼンテーションの基礎知識」
演習：「ミニプレゼン体験」
演習：「全体構想シートの見直し」
説明：「プレゼンテーションの実際」
演習：「プレゼン準備」
演習：「2分間プレゼン」

